

「萎黄病抵抗性葉だいこん」系統の育成

〔要約〕 「博多四十日」と「安濃4号」を交配し、萎黄病汚染ほ場における萎黄病抵抗性系統の選抜と世代短縮を行って、萎黄病に強く、葉及び葉柄に毛茸がほとんどない葉だいこんとして優れた形質を有する「萎黄病抵抗性葉だいこん」の系統を育成した。

園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室				連絡先	092-922-4111		
部会名	園 芸	専 門	育 種	対 象	葉菜類	分 類	指 導

〔背景・ねらい〕

葉だいこんは、従来から都市近郊の軟弱野菜として消費は安定しているが、最近では消費者の健康志向の中、緑黄色野菜の一つとして需要は増加傾向にある。しかし、生産はほとんどが連作のため、夏季に萎黄病が頻発し、生産が不安定になり、周年生産の障害となっている。そのため、萎黄病に強く、優れた形質を有する葉だいこんを育成する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①「博多四十日」と「安濃4号」を交配し、萎黄病汚染ほ場を利用した抵抗性系統の選抜及び種子の低温処理を利用した世代短縮技術を用いて、固定までの期間を短縮し、形質に優れた葉だいこん系統を育成した（表1）。
- ②萎黄病抵抗性は、「博多四十日」に比べて非常に強く、「安濃4号」と同等である（図1、表2）。
- ③葉及び葉柄の毛茸が少なく、収穫しやすい。また、葉の切れ込み程度は交配親の中間で、実用上問題はない（表2）。
- ④双葉が大きく、初期は生育が早く葉色は薄いですが、本葉5～7枚以降の生育は緩慢で葉色は濃くなり、収穫期に幅がある。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①萎黄病が発生している現地圃場での試作に供することができる。

[具体的データ]

表1 「萎黄病抵抗性葉だいこん」系統の育成経過

交配年次	平成3年3月
組み合わせ	博多四十日×安濃4号
選抜年次	形質選抜：平成3～4年 萎黄病抵抗性系統選抜 ：平成3～5年 (萎黄病汚染圃場で選抜)
固定代数	自殖4代
世代短縮法(催芽種子を5℃に20日間おき、 高温・長日下で栽培)により、固定を早めた。	

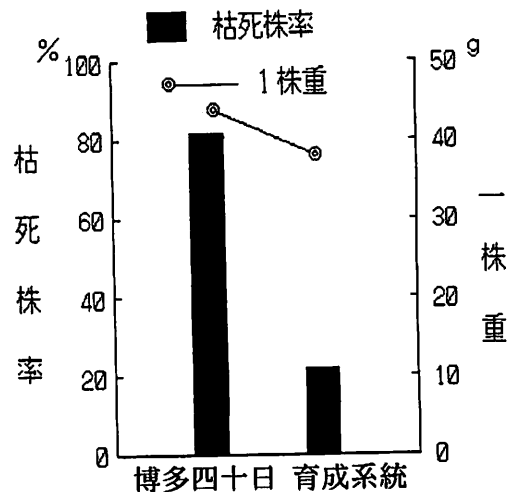


図1 萎黄病による枯死株率と健全株の1株重(平成4年)

表2 「萎黄病抵抗性葉だいこん」系統の特性(平成4年)

	「萎黄病抵抗性葉だいこん」系統		
	博多四十日	安濃4号	
萎黄病抵抗性	強	弱	強
毛茸 { 葉	-	-	-
毛茸 { 葉柄	-	-	+
葉の切れ込み	2	1	3
葉形	大	大	大
葉色	緑色	緑色	緑色
葉柄色	淡緑色	淡緑色	淡緑色
根部色	白緑色	白緑色	白緑色
生育期間	25～30日	25～30日	-

注①毛茸の程度：- (無)～++ (強)

②葉の切れ込み程度：1 (少)～5 (多)

③生育期間：夏季に葉長30cm前後、葉数8～10枚で収穫。

[その他]

研究課題名：葉ダイコンの育種

予算区分：経常

研究期間：平成5年度(平成2～5年)

研究担当者：林 三徳、伏原 肇、柴戸靖志

発表論文等：平成2～5年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書